



連城叢書
三十三

特別
14
696
132



Wahwahwah Wahwahwah

Wahwahwah Wahwahwah Wahwahwah

Wahwahwah Wahwahwah Wahwahwah

Wahwahwah Wahwahwah Wahwahwah

Wahwahwah Wahwahwah Wahwahwah

Wahwahwah Wahwahwah Wahwahwah

Wahwahwah Wahwahwah Wahwahwah



Wahwahwah Wahwahwah Wahwahwah

696
132



目錄

上書

天機 濃烈 高道 輪車 駁動 凡

既 赫 留 姑 拔 書

曉 姑

三洲 園 俗 隨 景

籍 師 山 並 芳 活 方 入 收 以 爲 行 則



小 寺 碑
五 是 文 序

吳山傳者

成務邦之承當 將軍家之長と書付字

一度長のむ

禮規極駁府にたらしす。以家時四厨方の将す
 之のねむの法數十條謔りて是を以て 御覧遊
 其者を御前におく汝中かえ思ひて迎沙塵洞有
 けまはた多儀後等沙例。有し後者中上り。を條沙
 之に用立る事ハ之を府に中上り。ハ夫ハ子方
 存意定らん後者の書面ハ不用立事計るれを極
 存行々事と我等。入願及存けし。志を称賛せし



下この言を求めし後の世も漢の文帝唐の太宗杯
りしる大聖英立るも下この言を能くしる今
の世も英名方續とされし思ふに當 沖代沙仁心
を多くしるまゝしるまゝ士民町人そ外倍長とて皆
清言中といふハ聖人の感格と中所謂自徳と清徳
の下に通い神明不思成と坊不ら是今も沖代質の
不ハ中といふと多く教給年来聖人の道を 沖代に
とめしる 沖代も熟し抱し清光外ありし
後と對有すゆふ然るに昔禁中らと白河院を相院

仙洞の政事と世法す ぬ一武家と足利義政
隠居して後より政勢を片邊敗れし友を後下と
皆隠居政事との心ゆめやまは隠居して後
そ家の威光俄におりし事と後つたは是に當り
そ時の心ゆめとぬぬぬ

権理標を信流標にむして沖代はは万事の世法
地きれはハ 沖代も徳は孝心の存する万子の持身
を清きせしむるに當 沖代も又けは持身は
天下一人今日とて万事 西元より出い清政事と

35
のそむくは當 上の法に意の程感格不位といつと
多りと思ふ事してしなま當 上亦自ら改務を以
い計能有るんと大早に而を待たず耳に居りたるは唯今
の法政事と天下万人目とけて好む如くは始
よは此一廉に仁政を施されら困窮難救の事をも
此救ひ拯きのを以て計ぬ場合にのみは仁政の
抱一方八年の始末を以て能の役人から好む
り何程と是あり居るは官室を卑くし其力を
溝洫を平らぐ仁政の才一は故より南 沖代より

希より沖代一の少榮耀とかしは存るは只は意
を以て抱く事早自れと聖人の大徳沖代を以り
強ひけりたれは事と天下一統ありては事と
志し一なり余細く小世法にたれは事と
ふれ成る事滞り改務は害を成る人として天下を
治るに小鮮を考ふるも したくすは小魚を以
入さる者加減を以て改むるは 瑞の月著を入
意は此の魚は漬きし天下の度すむらひ自牙入
して漬細の事と以る世法とせんとし此は

拵しむるがごとく一門礼ては法令も立不中又三年は
父母の道を改むとて人々の罪を天下に
あつて事な成るを於て父の教に道なるは
さし道とて事な天下人の害に成るは即
ちと改むる孝道なるは

一文照院極はけ所を心ゆあつて
常憲院極の御権前なる御自ら
禁制御はけ 仁安殿に於て
獨り御はけも斯上の位下へ移下は威徳

あつて御権前なる御自ら
御はけも斯上の位下へ移下は威徳
御はけも斯上の位下へ移下は威徳
御はけも斯上の位下へ移下は威徳
御はけも斯上の位下へ移下は威徳
御はけも斯上の位下へ移下は威徳
御はけも斯上の位下へ移下は威徳
御はけも斯上の位下へ移下は威徳
御はけも斯上の位下へ移下は威徳
御はけも斯上の位下へ移下は威徳

天保十二丑村八日

内卷

天保六年四月義濃之須輪中村之入水
騷動ありしに此年凡そ此村に

之須輪中村之入水之儀其面之也

百善新田大石之儀其面之也

之後留地五後村合八後流失切不有殺

凡六拾間祀之水深陸之弓原有之

大田重地之儀其面之也

乾強く元来七性之石原也

難地也防弁不其原中水切入也

水言五合同流有之水下在坂村
四合同之石乃石坂之氣吹抜り
休也音并之坂圍音石乃石坂
少事

福江之江并五町柳湊村色之田
少深味之土約有之少事

高須表

柳嶺之坂之故障之篇石乃石坂

石坂乃地修之 水系西之

如所也之中 一篇之全約地言

水系之中 一系一統之入水

其

福島成田上成田組北七倉五村

田田水深味八尺約有之

今鹿之坂之上子乃山城之坂

西之坂乃水系之坂之坂

こゝろ高上迄由入水一〜同西
田西三言水深縁八尺程有〜
一高田初鳥西村と村高言深縁五尺程
有之候家こゝろ才麻下迄入水一

以事

一六尻村の地言二言入水家是こ田西
一深縁四尺程有〜
一村に怪我人未之候〜其内五西村言

流矢家式斬倒象之形有之其係
水門落込分倒象亦有其内中
一六江也初内江除堤越切欠有未
其係

十五人
 田
 河
 長
 川
 古
 代
 清
 古
 古
 代
 治
 三
 平
 八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一

四月廿三日八時半時迄より数百人河を
 舟に上りて寺院に詣りて佛具太鼓を
 奏し、一乃斎部田押言汝之御歌
 詠長界振るる連名方之看光如合
 振五軒門戸を破記入るる家
 豊功不悉く神佛佛檀之玉と云
 存之に取捨居家度家上りて基不



別家格之類亦如又之有之切欠既亦
能之落以場而之有之。水坑ニありて
多之欠失初之治入之類春表利水
海行路之りも終之見今浪を初
亦毎之請之之。不州盜以の候
亦大且七新ニ入有之の穀物之類
水中に赤色二階ニ有之。小舟の長
等之細く歩利諸島之。一亦由不其見

不容易孔路之。衣名茶之内代助也
信樂代官橋子多之屋尾城之助候
而之。定和少郡代登田新在。山名候上
人数押取の各子代亦り。及利舎の
更之。不中入孔入賭初およい減之助
亦之。徳久未。在行付。甘。故。厚。大。田。新。西。
五。建。上。子。芥。若。故。生。請。乞。亦。此。行。付。也。
不。以。他。隨。所。子。代。在。初。家。来。進。路。

門之退行有言いほくくくく
表に上り少ぬ之系切有折致七江橋中
花貝村に退具足機を初海駕新
子道全法相諸乞之致進之悉り折
及欠失大切之書致事以方ふれん
お中人右場有之言廣代信坊田信助卿
家其百世在人致之古也い此法之舞
少也言以ふ子向い言一既家其為堂

子之致を原し為清らと重之言廣表に
川退少言十三日夜退在人致之川北殿
居家進色有之四五人之毎業舞
少居あり言十日日之舞り喜人七居中
川退之原不折法の折子原也先之一
之者左方是は原折退少言六と金
小水言木吹後以及八百舞新田
折針居是也一と中之原及及膝切

山海子水大山事

一 鶴多須正代冠常山動定此健後方初七八

葛木村ニ移上田ニ 端石見上ノ有ニ多

一 百畝新田切石例ニ 伍少包書其六中即

五拾人宛形修シ 修ニ 洪炮木拾ニ

日ニ 抄法ニ 年

一 六切石宛境ニ 伍少包書其言 漢市領ニ

事以子代木書ニ 者亦人案 古漢有之

洪炮十換砲

御江所筆石後 日入 漢幕力張也

古事居ニ 年

一 山城古攻立有 今尾野家ニ 及古包表

上ノ 役人拾七人 拾石有之 古事ニ 者

甲州人 古包表 古抄法 山也 古事ニ 年

一 古抄表 古抄法 山也 山海新田 日十

古事ニ 抄法ニ 年

郡奉行言人
大同寺言人
氏名言人
横目保言人
依在言代言人
同少言人
根家保四人
折言人

一 大森より大田村より二三人あり浪
舟を走らし也

少刻亦ありあり

一 豊田界言より大垣表言人教言人
如陽々候然合言也言武家言教言
道一 大垣水門邊に如陽々候言
り也 ありあり

一 高尾より言ありあり 如陽々候言

おれより下の少刻は、いふれふ年

・ 登田翁吉政の花貝村より、益堂軒の日記

に記す有之、少中言、漢炮は、子南、いふ、
正印送所、四、於、人、祝

途中、警、志、美、一、
見、送、り、少、中、事

五、傳、守、年

海、怪、振、出

合

目錄

- 一 宗譜 母系子孫世系等傳 附傳 母系世系等傳
- 一 宗廟 一祀之說 宗廟之說 附傳 宗廟之說
- 一 宗廟 宗廟之說 附傳 宗廟之說
- 一 宗廟 宗廟之說 附傳 宗廟之說
- 一 宗廟 宗廟之說 附傳 宗廟之說
- 一 宗廟 宗廟之說 附傳 宗廟之說
- 一 宗廟 宗廟之說 附傳 宗廟之說
- 一 宗廟 宗廟之說 附傳 宗廟之說
- 一 宗廟 宗廟之說 附傳 宗廟之說
- 一 宗廟 宗廟之說 附傳 宗廟之說

○ 宗譜 母系子孫世系等傳 附傳 母系世系等傳

一 宗譜 母系子孫世系等傳 附傳 母系世系等傳

一 宗譜 母系子孫世系等傳 附傳 母系世系等傳

一 宗譜 母系子孫世系等傳 附傳 母系世系等傳

卯辰戌の三乾將と云く門原恩。辰乃元龍將
派は好龍と云く門原恩。辰乃元龍將
辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將

一 辰乃元龍將

一 辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將
辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將
辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將

一 辰乃元龍將

一 辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將
辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將
辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將

一 辰乃元龍將

一 辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將
辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將
辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將

一 辰乃元龍將

一 辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將
辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將
辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將

一 辰乃元龍將

一 辰乃元龍將と云く門原恩。辰乃元龍將

一 門外雜記

一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也

一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也

一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也
一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也

一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也

一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也
一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也

一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也

一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也

一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也
一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也

一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也
一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也

一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也

一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也

一 門外仁德家所成り毎有年正月始其節也

取物に及ぶ所は、其の如く、所定に依りて、

一 他方より口許に取付く例

一 新着の品を、其の如く、口許に取付く例

一 之類の品を、其の如く、口許に取付く例

一 之類の品を、其の如く、口許に取付く例

一 新着の品を、其の如く、口許に取付く例

一 新着の品を、其の如く、口許に取付く例

○ 礼の再受取の例

取付の品を、其の如く、口許に取付く例

一 礼の再受取の例

一 取付の品を、其の如く、口許に取付く例

一 取付の品を、其の如く、口許に取付く例

一 取付の品を、其の如く、口許に取付く例

一 取付の品を、其の如く、口許に取付く例

之類の品を、其の如く、口許に取付く例

一 此の如くは... (Marginal note)

一 此の如くは... (Text)

一 此の如くは... (Text)

一 此の如くは... (Text)

一 此の如くは... (Text)

一 此の如くは... (Text)

一 此の如くは... (Text)

一 此の如くは... (Text)

一 此の如くは... (Text)

一 此の如くは... (Text)

一 此の如くは... (Text)

一 此の如くは... (Text)

かゝるものもあつたが、
昔ながらの御いひのきゝるものもあつた。
一 海軍省の御いひのきゝるものもあつた。
一 海軍省の御いひのきゝるものもあつた。
一 海軍省の御いひのきゝるものもあつた。

蠶
姑
十一

山城

淀

六石

松平和泉守桑邑

之和元松越中守定細居之

大和

郡山

三石

本多唐之助忠村

高取

三石

植村右衛門佐家敬

大和大細言秀長父子居之慶長立割番城
大和大細卜家臣本多太郎右衛門居

河内

泉和

岸和田

三石 岡部美濃守長泰

小出播磨守秀政同大和同右京居



振津

尼崎 四万 松平遠江守忠喬

高槻 六万 永井忠輝守直朝

三田 四万 九鬼丹後守隆休

荒木振津居池田紀守
高山右近居 元和三土以山城
山崎右馬助居 天正八有馬中務

伴勢

○安濃津 一萬 藤堂泉州高敏

○桑名 一萬 松平總州忠雅

神戸 一萬 石川江州總茂

長嶋 三万 板倉江州重治

長嶋 三万 增山對馬正仕

天正十一織田上野州信包同十七畠田左近
滝川一益居後一柳盛物
神戸藏人住永禄十二織田信孝羽柴總州
滝川一益慶長五二柳盛物
固本下野
福嶋掃部

志摩

鳥羽 七万 松平孫四郎元慈

九鬼隅州

尾州

御慶長十三年春命西土之牧集之

名古屋

犬山

御慶長十二年賜平岩親吉亦代義利守清須城
聞國中事

参河

吉田 七万 松平豆州信祝

岡崎 五万 水野泉州忠之

小酒井左
原隠列

刈屋 三万 三浦 壹州 明敬
田原 三万 三宅 能州 康利

水野和泉忠重
明応隆之戶田輝正

遠江

掛川 六万 小笠原 佐渡守 長寛
濱松 七万 松平 伯州 資貞 俊
横濱 七万 西尾 隱州 忠直

正十一石川日向
之龜二万 當將軍家居城 天正十八 堀尾 帶刀
天正十六 堀尾 資忠 守

駿府

田中 七万 土岐 丹州 頼徳

慶長十七 御書 飯

甲斐

○府中 五万 松平 甲斐守 吉良

武田氏居

仔豆

相摸

○小田原 三万 大久保 加賀守 忠英

北条氏長居

武藏

○忍 一万 阿部 豊後守 正喬
河越 六万 秋元 伊賀守 喬房
岩付 三万 永井 豆次 直信

成田下總守
北條氏
北條氏直才太田十郎氏房居

安房

常陸

賀慈無城 酒井越州忠篤

水戸三戸

下館三戸 黒田豊久直重

土浦九戸 土屋元亮時直

笠間六戸 井上河原正合

依竹左中将 慶長七古田一戸代

水谷元宗

慶長六松原

口 松原

上總

佐貫新 阿部因州正良
小由亮新 松平備州正貞

天正八 内藤清成

本多中勢

下總

関宿旁 久世和州重之
古河旁 本多中勢輔忠良
佐倉新 稲葉丹州正知
結城新 水野振州勝政
壬生新 鳥居丹州忠利

〇 本多因州

〇 小笠原之部

千葉康種居之 和筑之 土井

頼朝三男佐城七子朝元 筑城中納卜 康

八代相亮 康越前 康

少系持

近江

〇 彦根新 井伊掃部直惟
膳所新 本多主膳後普
水口新 加藤和州亮矩
大溝新 今部左京信美

往古 沢山伝 渡井中長政居

京極高次

関ヶ原以前有城 是文節者成

往昔 織田信詮 地中絶之 和

美濃

○大垣 戸田米女氏定
岩村 松平能州繁堅
加納 安恭對州重行
郡上 金太雲州重皆
苗木 遠山与州友章

天正十一池田三左衛門新政
信長時 後田村中將居之
岐阜引 織田秀信居城
天正十八 松葉イヨ
慶長十ヨリ代々

飛彈

信濃

○飯山 本多若州利久
松代 真田豆州幸道
小室 牧野防州康重

天正五 景虎執之家臣交代子
高坂 彈正居 後去云州
仙石 豊州

無城誤記

上田 松平仔賀守忠榮
松本 水野日向守忠茂
高遠 内恭仔清房
岩田 同 總州正教
高嶋 諫訪藝州忠虎
飯田 堀若州親庸

真田房州
天正八 石川 州
晴信代 仁科居之
代々
慶長六 小笠原氏

上野

酒井阿波守親本

上州 麻橋

家紋 劍及八三

其先酒井雅夫廣親者松平大郎九衛門親氏

清康七代

成孤獨住參州

○ 繁居坂井御之主為婿所生子也

館林 松右近將監清武
安中 内藤丹波政森

安貞永中 榊原
慶長中 井仔

下野

宇都宮此乃 戶田山城 忠貞
黑羽根此乃 大関信州 增恒
鳥山此乃 稻垣泉州 重量
太田原此乃 太田原 志州 扶清

天正宇都宮所三郎

成田九馬

奥

○白川此乃 松平越前 和州 基知
○會津此乃 松平原科 肥州 正容
○仙臺此乃 松平伊達 陸奥 吉村
○下関此乃 田村 下総 誠顯
○木六此乃 南部 大善 利幹
○八戸此乃 同 宮内 廣信

蒲生敏

芦名氏盛高居

代

代 伊達

代

代

出羽

○二本松此乃 子羽 九京 尹重
中村此乃 相馬 讚州 高胤
岩城此乃 内藤 備州 政樹
柳倉此乃 太田 備州 資室
三春此乃 秋田 主水 賴季
和泉此乃 板倉 百助 重清
弘前此乃 津輕 土佐 信室

代 二本松石京

代

代 岩城忠次

代 長六 蒲生 志州

代 慶長六 蒲生 志州

代

代 秋田城之助

慶長七 上杉

最上 出羽

之 和六 松丹

○秋田此乃 佐竹 右京 義泰
○庄内此乃 酒井 九衛門 忠真
○米沢此乃 上杉 民部 吉憲
○山形此乃 堀田 豆州 正虎
○上山此乃 松平 越中 信道

新庄十石 戸沢上十石 總正庸
本庄三石 六御仔州政晴

往古最上出册
代々

若狭

○小濱三石 酒井多三石 忠音

木下右衛門

越前

○福井三石 松
大野四石 土井甲三石 和
松岡五石 松一石 中務昌平

越中

○富山十石 松一石 長州利貞

依々貞州

越後

○高田十石 松ノ日向定輝
長岡七石 牧野駿州忠辰
村上五石 間部越州詮房
新發田五石 溝口信州重貞

景勝
上杉

加賀

○金沢百石 加州宰相綱紀
大聖寺七石 備川利章

能登

Handwritten note on a strip of paper, partially obscured by the binding. The text is written in vertical columns and appears to be a list or record of names and locations, including '福井', '松', '大野', '松岡', '中務', '富山', '長州', '利貞', '高田', '松ノ日向', '定輝', '牧野', '駿州', '忠辰', '村上', '間部', '越州', '詮房', '新發田', '溝口', '信州', '重貞', '加州', '宰相', '綱紀', '備川', '利章'.

新庄十石 戸沢上総正庸
本庄三石 六郎仔州政晴

往古最上出羽
代々

若狭

○小濱十石 酒井修理忠音

木下右衛門

越前

○福井十石 松ノ豫州吉邦
大野四石 土井甲州利治
松岡五石 松ノ中務昌平

往古朝倉氏
織田氏大野守五郎

越中

○富山十石 松ノ長州利貞

依々奥州氏

越後

○高田十石 松ノ日向定輝
長岡七石 牧野駿州忠辰
村上五石 間部越州詮房
新發田五石 溝口信州重貞

景勝氏
上杉氏

加賀

○金沢百石 加州宰相綱紀
大聖寺七石 備川利章

能登

丸岡石 有馬九衛
勝山石 小笠原駿

總正庸
州政晴

往古最上出羽
代々

堆忠音

木下右衛門

州吉邦
州利治
務昌平

往古朝倉氏
織田家大野守五郎

州利真

仇々奥州会

州定輝
州忠辰
州詮房
州重貞

景勝会
上杉会

州網紀
州利章

丸岡万有馬丸衛門真純
勝山新小笠原駿州信辰

慶長五
慶長六

佐渡

丹波

笹山平 松平 紀州 信峯
龜山日 青山 因州 忠重
福知山三 朽木 民部 植昌

前田 主膳 居
信長 時明 智居
日

丹後

田辺三 牧野 因州 英成

天正 土 細川 居

但馬

宮津三 主月 山 大膳 幸侶

一色 九 京 居

豐岡三 京極 加州 高榮
出石三 仙石 信州 政房

往古 羽 宗 秀 長
日

因幡

○鳥取三 三 右衛門 吉 恭

輝 元 居

伯耆

出雲

○松江六万松越雲州宣維

野之松

石見

濱田五万松ノ周防康豊
津野三万亀井隱州茲親

口 月

隱岐

播磨

美作

○明石六万松越左兵衛直常
姫路五万柳原式部政邦
立野三万服坂淡州安清
赤穂三万赤井泉州長直

往古別所山城

長七五池田

○津山十方松越平越後宣富

浮田中納言

備前

○岡山三十一万松越大炊繼政

城主守三兵田泉州

備中

松山 六万 石川主殿 總慶
芳森 三万 木下肥州 曾定

群之持
代々

備後

三次
福山 七万 阿部勢州 正縁

群之介

安藝

廣嶋 四万 松平藝州 吉長

同

周防

徳山 三万 毛利百次 齋就清

大内美隆 居

長門

萩江 九万 松 一萬 民部 吉元
長府 二万 毛利 讚州 匡廣

群之介

紀伊

和哥山 五万

淡路

阿波

○德嶋三行蜂須賀次州網矩

伊豫

西條三行去一九京九子

○宇知三行村昭

吉

○松

今治四行同加藤羽州泰統

大洲三行

Vertical handwritten notes on a slip of paper, including names like 吉松, 今治, and 大洲.

土佐

○高知山四行松一尚大助豊常

讃岐

○高松十方松讚州頼豊

凡毫六方京極若州高成

生駒雅示持

筑前

○福岡三行黑田筑州継高
秋月二方日甲州長治

生駒雅示持

松平久松字松山隱岐守定直字松山家紋
其先松平隱岐守定勝字松山所謂衆名少將是也
家康公別種一腹御舍弟

筑後

○久留米三行有馬玄蕃則維
○柵川三行立花玄州鑑常

毛利
代々

筑前

○仲津十方奥平大膳昌春
○小倉五方小笠原右近忠雄

元正八景田持

豊後

○佐伯三方毛利周防高定
○臼杵三方稻葉後州恒通
○中川四万内膳久忠

大友豊州居

杵築三万松平市正重交

肥前

○佐賀五万鍋嶋丹州吉茂
小城四万同加川真英
蓮池三万同攝別称就
嶋原七万松平主殿忠雄
唐津二万土井大炊利実
平戸一万松浦肥州守政
大村一万大村繁州純康
五嶋一万五嶋近州盛高

代々

代々有馬居

代々

肥後

○熊本

辛酉 三万

細川越州宣紀

宇土

三万

同豆只有清

人吉

二万

相良近州長興

本中流

日向

延園

二万

牧野幸助貞俱

高鍋

三万

秋月長州種弘

佐原

二万

富津淡州惟久

傷肥

二万

仔東修理祐永

代

大隅

增津家 薩戸大隅日向等處

薩戸

○鹿兒嶋

八万

富津薩州吉貴

御年寄曰慶女下口院跡 証元係戸 薩戸八万五ノ 其家久

對馬

○存中

宗

對州方誠

土臺

松津家

三國通覽圖說

仙臺林子平著

序 桂川甫周 天明丙午

蝦夷國全圖

林子平

朝鮮國全圖

日

琉球國全圖

日

無人島之圖

附錄

三國通覽輿地路程全圖

朝鮮正北列之北之江形各處詳列之

海上諸島之皇古以島等之對馬島之海上四國全

對馬島等之島等之朝鮮之東港釜山浦

江四十八里下云凡四十里不足也



與人篇一名小笠原山篇下之

伊豆原已二百七十里之有伊豆國下田より
之宅十三里三宅より新島に七里新島
より三倉峯に五里三倉峯より八丈峯に
四十一里八丈より北安人嶺に凡八十里南
安人嶺に二百里八丈より安人嶺に凡
洋中一五宮有と七只一太山と云産物也
三倉より安人洋中一里伊豆川下云是流
有舟人の船不又ん不之回圖を凡知へし

琉球国

備系物中清

- 一布貨類 木 一椰子形 通体 木
- 一竹多生傳 干 一竹類 干 信 中見 口
- 一作物類 心 入 一肉心 心 入
- 一肉羊用類 肉類 一肉心 心 肉類
- 一作物類 肉類 一美多 心 肉類
- 一宗系類 〇 一右左 心 又
- 一法系類 井 一少多 心 又

大京左邊寺の文

林彦仰及

山書林信濃守及
石持

書後大京左邊寺の文及度志只致誠田信彦と
屬久

おるふはりの庭よりあふる心
太清庵より

初もくきくつと風しきし
亭信彦と

時きくつと月と

石彦子好儒とて 年々同町ト云

細井彦宗大久保深園 彦郎名

香山 林彦仰

石彦園深初巻を云

永徳三年二月十日

成瀬初彦信九根降白人月

初彦初彦信九根降白人月

永徳三年二月十日

初彦初彦信九根降白人月

神を以て神とす有三人所正足年一乃其
を而也之れ神神立初を極まし一のいゆ
る神をふてお遠宮は守を不具と初以而
用長極り方是七少り付左右をつと
左中とく殿極は多め年也初は
上六横合し族をしる友若能保し去お
去い去守いめ是山とまにるも
乃のあまこ何子極りてあす如
天正十年一甲子九月廿八日

分封是年存以改新
改新為八十五別

六所五明神之神名

天正十年九月保科越前守正直信列
高道院に在る酒井忠次より
軍中出陣を初りて之を神とす
此等神視侍系其神に令て
之を以て家康より教日正直と
名付し政付し

拾夕十九日 芳根年久交の思見、備へ
そ子柄子代 古久保 志保 成願一舟。
方卜、寄地を備へ

甲列 芳根 備へ 力多 志保 年久 交の
四丁 芳根 志保 成願 志保 寺多
十丁 芳根 志保 成願 志保 寺多
志保 年久 交の 甲列 備へ 力多 志保 年久 交の
西の 志保 年久 交の 甲列 備へ

九月十九日

古久保 志保 年久 交の

成願 志保 年久 交の

芳根 志保 年久 交の

成願 志保 年久 交の 甲列 備へ 力多 志保 年久 交の

甲列 備へ 力多 志保 年久 交の

平岩 志保 年久 交の 甲列 備へ 力多 志保 年久 交の

稱し 志保 年久 交の 甲列 備へ 力多 志保 年久 交の

元 志保 年久 交の 甲列 備へ 力多 志保 年久 交の

見 甲列 備へ 力多 志保 年久 交の

方をとりて下りて如所の下りて今も如所
ふし今下りて不獲不獲ふし今も如所
今も如所今も如所今も如所今も如所
昔は方眼甲列にあり

一向宗寺兼破り破壊三列一向の徒
久し絶え断り二十年を經て石門の向
け一向宗の門の割れおし依教預け
件家屋本也親名石門寺乃付時
所經又をり向る毎に駕り

本をいししとていふいふいふいふ
しやめしとていふいふいふいふ
弟とまういふいふいふいふ
弟とまういふいふいふいふ
弟とまういふいふいふいふ

一巻

いふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふ

永祿年中同子古名地之古高子
以多之海國治海由物高子云云
寺地之且之古字字字云云
一天正九年一治云云

享和元商年二戌正月

山普法百人教心宛沂水

年氏

山善清集の巻

下條在所中乃
西河高申

吳波所其丁日
申波東ケマ

月知て其年々之

一山切道其云

一山切道其云

註云女分

大内田

江村江及下

山切道其云

山切道其云

大内田

江村江

山切道其云

山切道其云

大内田

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

柔石河元可
上九車ケ

内初字年分
一山切并指石
一山切并指石
一山切并指石

大房以新
百七十一

唐弟元
高下月

一山切并指石
一山切并指石
一山切并指石

口
百七十一

山善法年山

唐弟元
高下月

一山切并指石
一山切并指石
一山切并指石

依之可
上九車ケ

一山切并指石
一山切并指石
一山切并指石

目並
東十六

一山切并指石
一山切并指石
一山切并指石

日全福堂所部
東乃尚今平九
西小ケ

正乃古所部
修乃何上
東ケ

明治七年分定
山切平石
山切水之下

山切水之下
大正四年分定
百六十六

正乃古所部
修乃何上
東ケ

山切水之下
大正四年分定
百六十六

次入

山切平石
山切水之下

山切平石
山切水之下

山切平石
山切水之下

丹羽吉兵衛

日全福堂所部
東乃尚今平九
西小ケ

山切平石
山切水之下

山切平石
山切水之下

日全福堂所部
東乃尚今平九
西小ケ

山切平石
山切水之下

山切平石
山切水之下

山切平石
山切水之下

山切平石
山切水之下

中西次入

自代所中...
有...
...

三月...
...

...

...

卜...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

中西次入

...

...

上家光所可
中九十九

高九十九
高九十九
高九十九

柳川去所
百三十九

上家光所可
中九十九

高九十九
高九十九
高九十九

信方去所
百三十九

中下三所可
中九十九

高九十九
高九十九
高九十九

此村去所
百三十九

上家光所可
中九十九

高九十九
高九十九
高九十九

中家去所
百三十九

中家光所入

中下三所可
中九十九

高九十九
高九十九
高九十九

武田去所
百三十九

上家光所可
中九十九

高九十九
高九十九
高九十九

信方去所
百三十九

上家光所可
中九十九

高九十九
高九十九
高九十九

信方去所
百三十九

上家光所可
中九十九

高九十九
高九十九
高九十九

信方去所
百三十九

上家光所入

上家光所入

上家光所入

上家光所入

上家光所入

上家光所入

古河川花柳所
寺のありし
上東寺

天明二年
山切米七石
山切米七石
山切米七石

山切米七石
山切米七石
山切米七石

古河川花柳所
寺のありし
上東寺

天明二年
山切米七石
山切米七石
山切米七石

山切米七石
山切米七石
山切米七石

古河川花柳所
寺のありし
上東寺

天明二年
山切米七石
山切米七石
山切米七石

山切米七石
山切米七石
山切米七石

古河川花柳所
寺のありし
上東寺

天明二年
山切米七石
山切米七石
山切米七石

山切米七石
山切米七石
山切米七石

寺のありし
上東寺

古河川花柳所
寺のありし
上東寺

古河川花柳所
寺のありし
上東寺

天明二年
山切米七石
山切米七石
山切米七石

山切米七石
山切米七石
山切米七石

古河川花柳所
寺のありし
上東寺

天明二年
山切米七石
山切米七石
山切米七石

山切米七石
山切米七石
山切米七石

古河川花柳所
寺のありし
上東寺

天明二年
山切米七石
山切米七石
山切米七石

山切米七石
山切米七石
山切米七石

長子田村

寛政八年
一、由切首全書
由持成式入

抄本名

中流之流

百二十七号

唐之入

尺習作

及割没見之没之想以志
年抄之正方行上府之若

唐之入
其下也

寛政八年
一、由切首全書
由持成式入

年年入海西書

福後書

百二十号

以長同也

寛政七年

江表全書

少口海傳

百十八号

幸公同也

寛政八年

筆心行意

百十四号

幸公同也

享和二年
一、由切首全書
由持成式入

海抄

本村乃也

百二十三号

上名三命

寛政八年

富加抄

入

下館屋町筋 享和三年五月
堀下東一入 一
白くこ

至子代

青木久之郎
百二十二

十竹屋町筋
百二十二

寛政七卯
百二十二

松下松花
百二十二

月並山の井
百二十二

寛政八卯
百二十二

今井信介
百二十二

まふ屋
百二十二

寛政十二未
百二十二

中島三九郎
百二十二

紅印
百二十二

入

堀下東一入
享和三年五月
堀下東一入
白くこ

物書

二浦六次
百二十二

左馬河原
百二十二

享和元酉
百二十二

菅原吉平
百二十二

白文

為三郎
百二十二

口二成
百二十二

清井子太郎
百二十二

定内り口
百二十二

文化元子
百二十二

永田俊子
百二十二

河津藩領地内村名目録

日蓮文正寺
常中村

河津藩領地内
河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内
河津藩領地内

河津藩領地内
河津藩領地内

大休自西

嘉永六年辛亥 尚波

少子所家

山切道中

本在河内

山切道中

有津草

山切道中

西合

山切道中

唐井古

山切道中

中

山切道中

竹

山切道中

小

山切道中

山切道中

百三十五

山切道中

百三十四

山切道中

百三十三

山切道中

百三十二

日重

山切道中

若

山切道中

日重

山切道中

若

山切道中

山切道中

百三十一

山切道中

百三十

山切道中

百二十九

山切道中

百二十八

嘉永七年

嘉永八年

嘉永九年

嘉永十年

嘉永十一年

嘉永十二年

前津長相院
門下ありあり

寛政二十五年
山田平次郎
山田平次郎

勘書定儀

近右同平
百三十七年

中下了了
百下分二十日
西入ありあり

寛政二十五年
山田平次郎
山田平次郎

山田平次郎
百三十八年

押切船屋
松介ありあり

寛政二十五年
山田平次郎
山田平次郎

勘書定儀

山田平次郎
百三十八年

新方船屋
西入ありあり

寛政二十五年
山田平次郎
山田平次郎

山田平次郎
百三十八年

竹山ありあり

寛政二十五年
山田平次郎
山田平次郎

山田平次郎
百三十八年

中下船屋
江ありあり

寛政二十五年
山田平次郎
山田平次郎

山田平次郎
百三十八年

名所ありあり

寛政二十五年
山田平次郎
山田平次郎

山田平次郎
百三十八年

日重ありあり

寛政二十五年
山田平次郎
山田平次郎

山田平次郎
百三十八年

寺社之沿革

寛政十二年申ノ尚役
一切命令ノ支

日本志古
百十八

報日令ノ支

高年ノ尚役

一切命令ノ支

浅井之書

山段抄ノ支

報日令ノ支

文化五年ノ支

三卯辰

是政十年ノ支

皇人ノ支

十世書ノ支
是政十年ノ支
皇人ノ支

本志之由

享和元年ノ支

竹川村

長年ノ支

山段抄ノ支

青山

世下ノ支

是政十年ノ支

山口

是政十年ノ支

林

世下ノ支
是政十年ノ支

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

小使の申回

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

也之同也

每字一八

楊氏十八

高和三五

一切首全式

一六披掛

邦制武方 元音

亥二十四

定四三五

一切首全式

右月

久

西二十六

元正

新

定曆

一相

市

定四元

一相

新

定四三五

一相

新

定四三五

一相

新

定四三五

一相

新

紅

寛政九年
西暦今五年
味波村役地
平八

寛政九年
西暦今五年
味波村役地
文三

寛政九年
西暦今五年
平日村役地
三郎

寛政九年
西暦今五年
日光村役地
平五郎

寛政九年
西暦今五年
法界村役地
上吉

寛政十年
西暦今五年
法界村役地
三郎

寛政十二年
西暦今五年
味波村役地
三郎

寛政十二年
西暦今五年
味波村役地
文三

白雲の松屋下小善信の役所書

長崎町三丁目

東ノ中札

西切岸七番
山崎町

定例の定規有るに割る

山口屋

長崎今白丸丸報日年今



